

施設介護サポーター事業検討委員会報告書(概要)

はじめに

東京都では、地域住民が高齢者施設において、「施設介護サポーター」として活動できる仕組みを構築するため、モデル事業を実施した。本報告書において、モデル事業の経緯・結果の報告、検討委員会による検証・今後の取組への提言を行う。

事業の背景と目的

《背景》

- 高齢者施設の人材確保・定着が困難
- 今後新たに多くの介護人材が必要
- 高齢者施設の業務は介護職員でなくても行えるものがある

《目的》

- 学生から団塊世代も含めた地域住民を施設介護サポーターとして養成し、個々の能力を発揮して組織的・定例的に活躍
- 地域住民の社会参加促進及び施設の活性化を推進

施設介護サポーターとは？

介護職員と異なり無給で高齢者施設の業務を組織的・定例的にサポートする地域人材。その位置付けは、施設で活動するための知識・技術等に関する養成研修を受講し、コーディネーターと活動日時や活動内容を調整した上で、自発的に活動する方と設定する。



モデル事業

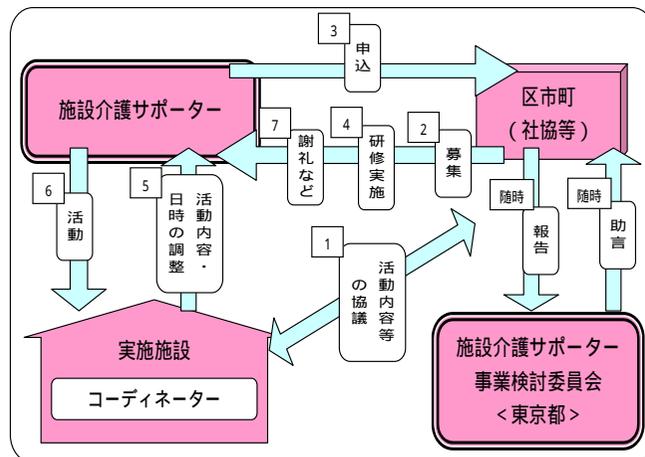
モデル事業の内容



モデル事業実施団体



モデル事業のイメージ



モデル事業の検証

- 検証1 養成研修の状況
- 検証2 地域住民の参加と地域社会の活性化
- 検証3 ボランティアとの違い
- 検証4 コーディネーターの役割
- 検証5 施設の活性化
- 検証6 利用者の生活支援



モデル事業の検証による提言

- 提言① 施設介護サポーターの位置付け
 - 施設介護サポーターは「組織的・定例的」に活動を行うなど、位置付けを明確化する。
- 提言② 施設介護サポーター養成研修
 - 施設介護サポーターの活動に沿って研修内容を設定する。
- 提言③ 施設介護サポーターへの参加促進
 - 幅広い層からの参加を得るための工夫を講じる。
- 提言④ 区市町村と施設との連携
 - 区市町村は、連絡会等でモデル事業実施施設を支援する。
- 提言⑤ コーディネーターの役割
 - コーディネーターは重要な役割を担う。

施設介護サポーター事業の今後の展開

- 元気な高齢者をはじめ、幅広い世代の地域住民が「地域社会を支える担い手」となる
- 地域住民の自己実現や地域社会の活性化
- 将来介護の資格取得に意欲を持つ方が生まれたりする可能性

